

# インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ) ホウセイダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ナガオカゼミ
法政大学	経済学部	永岡ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ) ニッケイディーハン	フリガナ) ツザキソウヤ	6人	無
日経D班	津崎奏也		

研究テーマ（発表タイトル）
ごはんで繋がれ！ご近所さんいらっしゃ〜いプロジェクト

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要（目的・狙いなど）

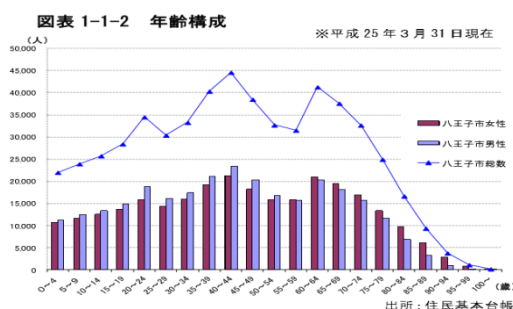
衰退の一途を辿る地域コミュニティを地域の特色に合った形で再生と活性化を計る。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

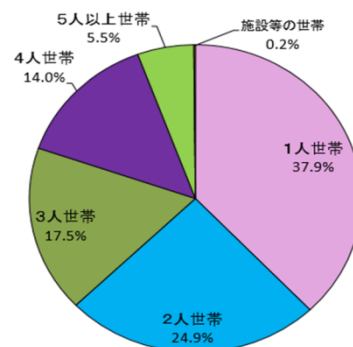
1995年（平成7年）1月17日に発生した兵庫県南部地震による大規模地震災害、「阪神淡路大震災」。当時救出された市民のうち、約8000人が警察・消防・自衛隊によって救助され、残りの約27000人は市民によって救助された。災害という緊急的な事態に市民どうしが多くの救助活動ができたのは地域コミュニティ、人と人とのつながりが大きく存在していたことが理由として挙げられる。地域コミュニティが機能していなければ、このような緊急な事態に対応できないだけでなく、地域のアイデンティティの衰退や資源や自然の維持機能衰退、治安悪化なども招いてしまう。しかし現在、大都市に住む約半数の世帯は地域交流を持っていない。また、大学生などを数多く含む単身世帯においては約7割が地域交流を持っていないという現状がある。国土交通省の調査によると、一般的な原因として昼間に地域に人がいないことや少子化、地域への愛着感情や帰属意識の低下が挙げられている。

私たちは、大学近くの八王子市にて実際に調査を行ったところ、年代別に団塊世代は自治会などで地域コミュニティを築き上げているが、団塊ジュニア世代は閉鎖的かつ年齢層の異なる自治会に入っていけないというのがこの問題を深刻化させている。大学生に至ってはアンケートの結果7割が地域コミュニティに参加していなかった。また、具体的な理由としてはまずどのようにして地域コミュニティに参加すれば良いのかすら分からないという学生がアンケートの結果過半数を占め、それ以外にも自治会の存在すら知らない学生もかなりいるというのが現状であった。八王子市の年齢構成※図1参照 をみると人口が多い大学生から団塊ジュニア世代までのコミュニティが作られていないというのが現状として挙げられる。

（図1）



図表 1-1-3 世帯構成比



### 3. 研究テーマの課題

前述でも述べた通り、我々が住む八王子市では大学生、団塊ジュニア世代、高齢者が多い。しかし町会や市役所にお話を伺ったところ 60 代以上の高齢者のコミュニティは確立されており、その他年代のコミュニティが確立されておらず、これからを担う世代を繋げるコミュニティづくりが課題として挙げられる。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

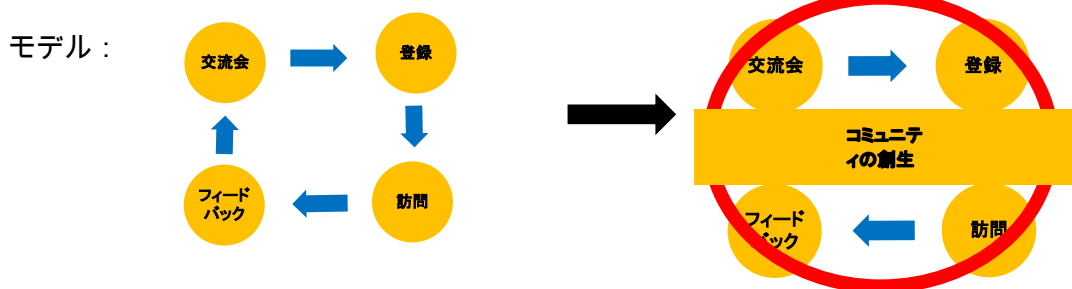
私達はまずこの両者を繋げるために双方が win-win の関係を築く事が必要と考えた。結果、団塊ジュニア世代は子育てと介護のダブルケアを抱えている事。学生は一人暮らしで栄養バランスの取れた食生活が出来ていない事が分かった。この事から団塊ジュニア世代のニーズは自分の力では時間の掛かる仕事や、中々手の回らない仕事を行ってくれる事。学生にとってのニーズは料理を提供してもらい、かつ実家のような食卓を囲むという感覚を味わえる事。となった。そこで私達はこの両者をマッチングさせ、お互いのニーズを満たし合うだけではなく、同時に地域コミュニティの創生と活性化を行うためのビジネスモデルを作った。簡単に説明すると、交流会にて双方の関係を築き、その後学生が団塊ジュニア世代の家にご飯を食べに行く代わりに、学生が団塊ジュニア世代の求めるお手伝いを行うというものだ。

ここから具体的な流れ（説明）に入る。

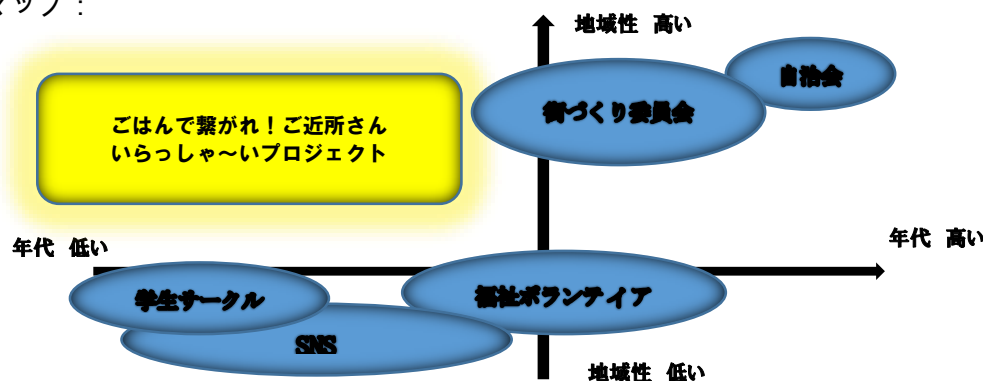
- ① 交流会  
お互いを知ってもらう手段として、各自治体と提携し、自治体のイベントやボランティアについて学生、団塊ジュニア世代に呼びかけ、参加してもらう。PR 方法としては SNS、大学生協、スーパーの広告、回覧板、小中学校のお便りのように目につきやすい場所に掲示する。PR のアプローチについては下記に記載する。イベント内容は自治体がこれまでやってきたイベントから私たち学生が提案するイベントまで様々行い、双方に交流をもたせる。
- ② 登録  
交流会の際に双方に本サービスの利用者登録に必要な情報を紙媒体で提出してもらい、それらをもとに我々が代行する形でホームページに登録してもらう。双方は自分の自己紹介や趣味、SNS のアカウントなどを載せてもらう。団塊ジュニア世代は登録ホームページには何月何日にどのような料理を作るのかの献立、そしてどのようなお手伝いを学生にして欲しいのかを載せる。予約が入り次第私達が双方に確認連絡を取り、お互いの住所を当事者達にのみ開示。
- ③ 訪問  
学生が団塊ジュニア世代の家を訪問し、学生はご飯をご馳走になる。団塊ジュニアは学生に家庭の手伝いをしてもらう。
- ④ フィードバック  
訪問終了後、双方にフィードバックを行ってもらい、次の交流会で提出してもらうことで持続性を持たせる。

双方の PR 方法として学生には SNS や学生生協でアプローチを行う。SNS を活用する理由としては、学生の約 9 割が利用しており目につく割合が高い。学生生協を活用する理由としては、一日の平均利用者数が約 3400 人と多数の学生が往来する場所であるためこのサービスを利用したい学生を集める手段として適当であると考えた。また学生以外のターゲットにはスーパーの掲示板や回覧板、学校の便りでアプローチを行う。八王子市に住む 20 代から 50 代の方々に街頭アンケートを行ったところ、よく目にする媒体としてスーパーの広告や子供が家から持ち帰る学校の便り、回覧板が多く挙げられた。そのためこれらに対するアプローチが適当であると考えた。

交流会、ホームページ、食事、フィードバックがうまく循環し、コミュニティが広がる。お互いが明確な win-win の関係を持てる事により、このサービスの利用を積極的に行う。またこのサービスを利用することでマッチングした団塊ジュニア世代から大学生の間でコミュニティが芽生える。この芽生えの連鎖と拡散を、広告や、フィードバックを上手く織り込んだ事で同時に行える仕組みを整えた。また、同系統の団体とのポジショニングマップを作成した所我々のサービスは独自性がある事が分かった。



ポジショニングマップ：



## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちのプランが有効かどうか、学生側と団塊ジュニア世代双方の立場から検証を行った。このサービスの趣旨を伝え、利用したいかというアンケート調査を行ったところ、学生側は 71%、団塊ジュニア世代側は 64%もの人が利用したいと回答した。よって私たちのプランは十分に実現可能である。また、実際に八王子市役所共同推進課の大野さん、学生課の福田さんとお話をさせていただいたところ、市との協力は可能という前向きなお返事を頂いた。これによりサービスの提供を八王子市全体に広めることが実現可能になる。まためじろ台自治会顧問の大石さんにもお話を伺ったところ、交流会として自治会のイベントに参加するのは大いに歓迎であり、大学生の面白い発想で新しいイベントを開催してほしい、協力は可能であるというお返事を頂いた。

## 6. 結果や今後の取り組み

街頭調査、アンケート、市役所・自治体へのヒアリングから私たちのこのプランには需要と実現可能性があることが分かった。我々はこれから実際にホームページ作成、マッチングまでを行い、このサービスを実際に行う予定である。

また八王子市役所主催の八王子コンソーシアムに出場し、そこで採用されれば八王子市という大きな単位で市政の資金、広報力を借りての取り組みとなる。

## 7. 参考文献

- ・国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html>
- ・世代特徴 <http://sedainet.web.fc2.com/dankajirsedai.html>
- ・ダブルサポート <http://yokras.com/knowning/441>
- ・八王子地域コミュニティ[http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps\\_data/material/\\_localhost/soshiki/seisakushingishitsu/kenkyukaigi/chiikibunseki5.pdf](http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps_data/material/_localhost/soshiki/seisakushingishitsu/kenkyukaigi/chiikibunseki5.pdf)
- ・内閣府・災害対応能力の維持向上のための地域コミュニティのあり方に関する検討会報告書
- ・八王子人口構造の変化を見据えた八王子のまちづくり最終報告書
- ・八王子市役所訪問・仙台市ホームページ <http://www.city.sendai.jp/kensetsu/dourokanri/fuyumichi/>
- ・国土交通省 [www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html](http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html)
- ・厚生労働省生活習慣病対策室
- ・農林水産省 [http://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/nouti\\_mizu/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/nouti_mizu/)
- ・豊橋市ホームページ 阪神淡路大震災から学ぶ 地域コミュニティの見直し <http://www.showado-kyoto.jp/files/hansin3/322.pdf>
- ・ご飯を食べて仲良くなろう <http://communication-relationship-skill.com/post-5129>
- ・教師のカウンセリング & コーチンググループ <http://ameblo.jp/asakusaedomoji/entry-11247512372.html>
- ・弘津公子（ひろつ きみこ）講師（健康福祉学修士）<http://www.ymg-ssz.jp/chiikiseeds/mydusers/view/49/3>
- ・ジョーギア氏 <http://www.campaignjapan.com/tag/%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%BC%E3%82%B2%E3%83%93%E3%82%A2>
- ・エアビーアンドビー <https://www.airbnb.jp/>
- ・八王子市ホームページ <http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>
- ・スーパーアルプス八王子 ダイエー西八王子

## インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

### <企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となります。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

